

私たちの活動や意見を仲間
で共有します。
会費は県と日本平和委員会
の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2020年7月15日 第341号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//heiwatutitira.web.fc2.com/

結成 (1994/4/30) から26周年

土浦平和の会第27回総会開かれる (7/4)

安倍9条改憲ノー！活動強化へ決意

原発再稼働反対、仲間づくりなど、新年度のスタート

7月4日午後、土浦平和の会は第27回総会を開催しました。今年は1994年4月30日の結成から26周年を迎えました。

総会に先立ち、岩井孝氏（元日本原子力研究開発機構労働組合中央執行委員長・日本科学者会議原子力問題研究委員会委員長）が記念講演を行いました。（下記参照）

会場は密を避け、マスク着用や換気などが要請されるなどのコロナ対策仕様で取り组まれました。

冒頭の岡田代表あいさつ、近藤事務局長、古澤理事などの各種報告・提案に続いて、会場からの積極的な発言が続きました。

東海第2原発再稼働問題に関し、条例制定請求署名運動に取り組んだ生々しい経験が報告され、「県議会における否決についても、5名の県議の賛成は今後につながる貴重な成果と受け止める。」との思いが語られました。コロナ禍における医療問題に関し、地域医療を考える住民ネットが基幹2病院を訪問し、医療従事者への感謝・激励を伝えるなどの取り組みが報告されました。

新年度運動方針の柱は、安倍改憲ノー、民主主義・立憲主義の回復に向けた運動、辺野古新基地に反対する沖縄との連帯、東海第2原発再稼働反対に向けた新たなたたかい、核兵器廃絶をめざす世界のたたかいとの連帯、教育反動化に反対する運動、そして会員拡大の取り組みなど、12項目です。

岩井孝氏が記念講演

東海第2原発再稼働の危険性について

岩井氏は福島原発事故の実相から解明を進めた上で、東海第2原発に関する新規規制基準の問題点、再稼働の危険性などを、第一線に立つ科学者の立場から解き明かしました。

新規規制基準は既存原発を再稼働させるための妥協の産物であり「世界で最も厳しい」はウソであること、さらに、事故が起きたときどのような事態が予測されるのかなど衝撃的な報告に会場からは驚きの感想が寄せられました。



密を避けマスク着用で

7/8 土浦市と平和問題で懇談 平和行政の一層の前進を要望

土浦平和の会は去る6月22日に「原水爆禁止平和行政および土浦市の平和行政に係る要望と懇談のお願い」を提出し、回答と安藤真理子市長との懇談を求めています。これに対する市との懇談が7月8日に行われました。残念ながら



安藤市長名の回答書を受け取る岡田代表

から安藤市長の参加はありませんでした。

今回は市博物館など関係部局から5名前後の出席がありました

が、今回はコロナ問題の事情もあり、総務課長など2名のみでの参加でした。会からは4名でした。

市長名の回答書が提出・説明され、質問・意見が交わされました。原水爆禁止国民平和行政について、従来通り「趣旨に賛同」が示され、市長、議長、教育庁からの賛同募金も寄せられました。

質問、回答内容などの詳細については別途お知らせの予定です。



安藤市長署名のペナントを受けとる

夏の平和行事 コロナ禍に配慮しつつも

2020原爆と人間展

恒例のピースデーは中止し、原爆パネル展のみ実施

原爆パネル展

8月6日(木)～9日(日) 午前10時～ 午後5時

県南生涯学習センター(土浦市役所5階)
入場無料

主催：土浦 原爆と人間展実行委員会



2019年パネル展風景

被爆の実相を伝える写真や高校生が描いたヒロシマ原爆の絵画などを展示予定

8・15平和のつどい

I(アイ)ー新聞記者ドキュメントー

森達也(映画監督・作家)×望月衣塑子(東京新聞社会部記者)

日時：8月15日(土) ①10:00～ ②13:30～

会場：クラフトシビックホール土浦《土浦市民会館》

入場料：前売1100円(当日1300円)

主催：「8・15平和のつどい」実行委員会

後援：土浦市、シネ・フォーラムつちうら、憲法9条土浦の会、茨城県9条の会連絡会、茨城県市民連合、6区筑波山地域市民連合、憲法を守りいかす土浦共同センター、県南総がかり実行委員会

協力：茨城映画センター



官邸記者会見で鋭い質問を投げかける記者・望月衣塑子、なぜ彼女ばかりフィーチャーされるのか？彼女

は特別なのか？メディアの有り様に一石を投じる社会派ドキュメント。

報道では決して映し出されない、現代日本の真の姿。

京都大学総長で霊長類学・人類学者の山極寿一さんが語っています。

人間がジャングルなどの開発を進めたことで人間と接触が少なかった動物が人間や家畜と接触するようになって、ウイルスが突然変異し、姿を変えて人間に襲い掛かってくるのが近年頻繁に起こっている。SARS、MERSや新型インフルエンザなど。これまで安定していた生態系を破壊したために起こっている。

利潤追求の資本主義が発展途上国の手つかずの自然を破壊している。

医療・介護、子育て、教育など生産性や

効率性に結びつかない公共財がある。コロナ禍のもとでもライフラインを支えてくれた仕事がある。食糧を供給する人、配る人は必要だし、ライブハウスやカラオケ喫茶も、街の飲み屋も人間的な生活の文化として必要なものだ。

地域や地球全体で感染を抑えるために自国主義ではなく連携し協力していくことが必要だ。感染拡大を抑える

協力が呼び水となって気候変動を抑止するとか、持続可能な開発目標を達成する動きにつながればいい。

(6/20付「しんぶん赤旗」から一部引用)

新型コロナから学んだこと

自国主義でなく地球規模の連携が必要

井上仁志 (土浦平和の会理事)



【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額520円(送料含)